



藤井孝一さん・60歳
無職
家族：妻、母
予算：3000万円

P
R
O
J
E
C
T
I
L
E

セルフビルドでコストダウン | 何千万円もの資金がなくても大丈夫! コツコツ手づくりを楽しんだ大型ログ

山梨県明野村→藤井孝一邸

藤井邸建築費徹底解剖

コスト
ダウン

414万円

“お金で買えない”家の原価。メーカー算出の材工一式参考価格は3042万円だった

屋根材を含む、特注特大キット価格。せっかくの田舎暮らしには大きな家が○

緑をアクセントにした塗装は藤井さんのデザイン。塗料はステンプルーフだ

●	総工事費・税込	2628万円
●	仮設工事費	25万円
●	基礎工事費	221万円
●	ログ材料費	1350万円
●	組み上げ・大工工事費	73万円
●	屋根・板金工事費	0円
●	左官・塗装工事費	34万円
●	設備工事費	528万円
●	外構工事費	50万円
●	その他	347万円

基礎は専門業者に依頼した。業者のサービスで、便利な半地下収納をつくってもらった

キッチン・風呂・トイレ、どれも自分で手配、設置をしたこだわりのもの

工事期間中の交通費、食事費、工具類も込み。それらには3年間で268万円かかった

①トクク度 ★★★★★ セルフビルドに協力的なメーカーを探す

建築地の近くにあるメーカーをいくつかあたってみたが、請負建築を勧められるばかりだった。しかし、そのなかの一社に親身にキットプランを考えてくれるメーカーがあり、設計料もサービスしてもらえたのだ



②トクク度 ★★★★★ 廃品を利用する

家の解体などで捨てられそうになったものを随所に使用している



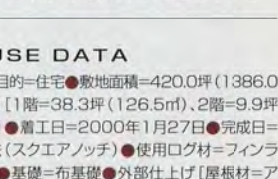
③トクク度 ★★★★★ 田舎暮らしならではのゆったりした間取り

田舎暮らしを満喫するために考えた家は、横長の大きな家。土地の価格が比較的安い田舎だからこそ、大きな家で暮らせるからだ。間口の広い横長の形は見た目の安定感がよく、採光も◎



④トクク度 ★★★★★ 基本的に平屋で暮らし 予備のロフトを設ける

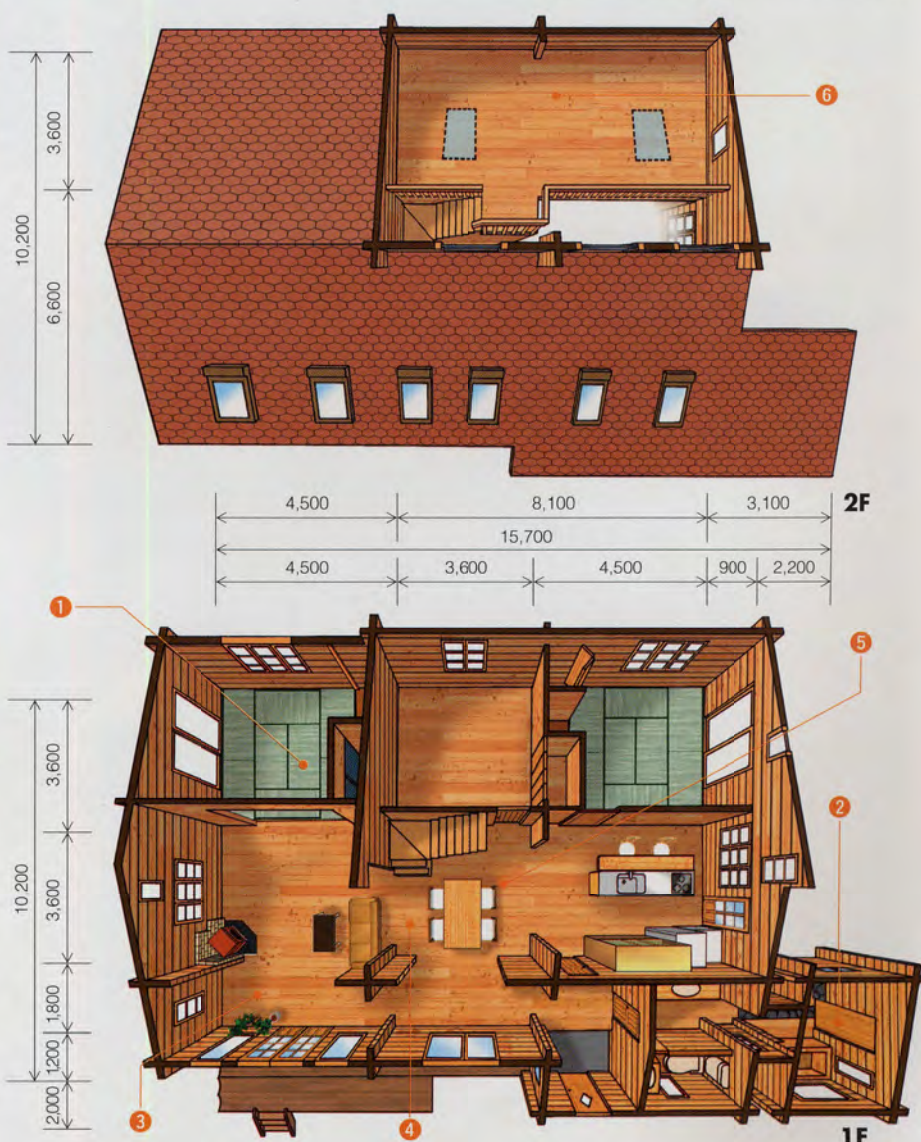
生活はすべて1階でできるようにしているが、予備室のロフトがあればより便利。収納が少なかったので棚をついたり、趣味の写真を飾ったり。孫が遊びに来ればおもちゃの部屋になる



⑤トクク度 ★★★★★ 半地下収納が便利

土地の傾斜を利用した半地下は家の中からも入れて重宝している

ココがトクしたこだわり | POINT 6



LOGHOUSE DATA

●所在地=山梨県北巨摩郡明野村 ●使用目的=住宅 ●敷地面積=420.0坪(1386.0㎡) ●延べ床面積=48.2坪(159.3㎡) [1階=38.3坪(126.5㎡)、2階=9.9坪(32.8㎡)] ●デッキ=4.9坪(16.2㎡) ●着工日=2000年1月27日 ●完成日=2003年4月1日 ●構法=丸太組み構法(スクエアノッチ) ●使用ログ材=フィンランド・バイン(サイズ=12.0×19.5cm) ●基礎=布基礎 ●外部仕上げ[屋根材=アスファルト・シングル/建具=木製ペアガラス/サッシ/塗料=ステンプルーフ(2回塗り)] ●内部仕上げ[天井材=床材=バイン/無塗装] ●設計=TALO建築設計事務所 ●輸入=㈱TALOインターナショナル ●施工=藤井孝一



現在、緑に囲まれたログハウスで悠々自適の生活を送る藤井さんが、セルフビルドを始めたのは57歳のとき。大工仕事が趣味だったこともあり、「何千万円ものローンを組んで手早く建ててもらわなくてもいい。キット代など最初の支払いだけができれば、あとは少しずつ材料や道具を買いきろえながら自分で作業をしていくことで、多額の借金を負わなくても建てられるはず」との意気込みで作業を始めたのだ。土地を買ったあと、キャンピング・カーで寝起きしながら建てた簡単な作業部屋をベースに、3年間の作業を終えてログへの引っ越しを果たしたときには、定年退職を迎えていた。

3年間で振り返ると、東京で仕事をしながら、休日になると山梨までクルマを飛ばして作業に没頭する生活。日帰りでもなるべく作業を進めるためにやってくる。3年間、毎月6〜15日は作業していたという精勤ぶり。写真や山登りなど、ほかの趣味を楽しむ間はなくなってしまう。お金をかけずに建てるため、収納や照明、ポストなどの小物も手づくりした。交通費は割引の大きい高額ハイウェイ・カードを使い、敷地内で野菜をつくり、ビールも安い店を探して購入。高価な道具はポータスを持って買ったりと、基礎やキットの最初の支払い以外は日々のやり繰りでまかなえるよう工夫した。

藤井さんの意気込みは、周囲の人々をも巻き込んでいく。「基礎屋さんには半地下収納をサービスしてくれた。近所の建築業者さんは無料で重機や足場を貸してくれた。たまたま廃業する木材屋さんからは木材や立派な床柱をもらえたり、キッチン設備は社長が近所に住んでいたよしみで大幅に値引きしてくれた。風呂メーカーさんも話を進めるうちに家づくりを応援してくれて、これも大幅に値引きしてくれました」。電気工事は友人に頼むことができた。作業中に撮影した写真を見ると、いつも数人の友人と一緒に作業してくれている。作業後のビールとパーベキューも大きな楽しみのひとつだった。

Saving&Advantage
明るく風通しをよくして光熱費削減

ログの構造でぎりぎりまで大きく開口部をつくり、天窓を設けたサンルーム。家全体の通風、採光のよい間取りで、エコロジーに暮らしているのだ



Saving&Advantage
買うより、つくることを考える

写真左奥の照明は、膨らませた風船に和紙を張り、風船を抜き、針金で開口部と留め金をつくったもの。写真左手前は100円ショップで購入したガーデニング用バスケットに和紙を張ったものだ

Saving&Advantage
余り材は徹底的に利用する

なるべく物を買わない建築に挑戦している藤井さんは、残り材の使い方もいろいろ。ログ材で階段をつくったり、タボ穴を利用して植木鉢を掛けたりしている。写真中央は内装材でつくった雨水タンクの目隠し。タンクには竹の棒を伝って雨どいから水が入り、その水をガーデニングに利用する。雨どいも残り材を使った手づくりなのだ



サクラと枝打ちされた防風林の木でつくったデッキの手すりは、枝の曲がりぶりが芸術的。腐っても交換すればOK



階段の踊り場から見たダイニングとリビング。間仕切り壁の上部を採光と通風のために開けているので、とても開放的な印象の空間だ

セルフビルドには楽しみばかりではなく、苦労話もつきもの。家を建てるのはもちろん初めてで、近所のセルフビルド教室を見たほかは、独学での作業だった。ログ雑誌や日曜大工雑誌、建築の本などを片手に、

手探りで作業を行った。このような場合、時間に追われると作業がつかなくなってくるが、気持ちに余裕をもって取り組んでいた藤井さんは、ひとつのところで行き詰まると、ひとまずその作業を後回しにできた。そ

の間にはほかの作業を進め、ふいにアイデアが浮かぶと元の作業に戻ったりと、焦らず取り組んでいた。大きな家のログ積みには7カ月かかったため、途中の台風でブルーシートが飛ばされてログが濡れてしまったアクシデントもあった。上に行くほど積みにくくなるログ壁には、完成後も苦労の跡がうかがえる部分もある。一連の作業のなかで、最もつまらなかったのは、上を向きっぱなしの天井板張り作業。また、最も難しかった作業は、建具づくりだそう。キットのなかに含まれている建具以外に、浴室のドアなどは藤井さんの手づくりだが、枠にきちんとはまるように、平行・直角につくる難しさは格別だった。

作業中の日誌をもとに延べ日数を計算すると、427日間、現場で作業をしていた。おそらく工務店に依頼した場合の倍以上の作業ペースだが、友人が手伝いに来てくれても作業人数は2〜3人だけなので、「このくらいはかかってよいのかな」と納得のいく進行状況だったそうだ。



写真上右、階段の手すりには、デッキの手すりと同じ、もらい物のサクラの木をあしらっている。写真上左、孫たちのおもちゃ部屋になっているロフト



写真右、手づくりの洗面台。写真上、洗面台の縁は、家から見える山々をモデルにした彫刻を彫り込み、凝ったデザインに仕上げている



写真左、風呂、洗面、トイレは一体的なつくり。トイレの間仕切りを低くして天窓の明かりが届くようにした。写真上、こだわりのヒノキ風呂



窓枠の上にはコレクションの陳列棚をつくり、棚の下部は近所で調達した竹を使ったカーテン・レールが架かる



Saving&Advantage

こだわりどころは妥協しない

写真上・上右、キッチンはレンジフードを壁に付けたくなかったため、アイランドにしてグリーンハイキを採用。写真右、余り材を利用したログに似合う仕上げで、大きなものや瓶が入れられる引き出しも使い勝手がいい



Saving&Advantage

ひと手間かければグレードアップ

細かな配慮を施した細部。写真左、押し入れは、敷布団を下の引き出しに納められる。建具枠は廃品利用で、扉は藤井さんが紙を張ってつくった。写真上左、洗濯機の配管を余り材で隠している。写真上右、コレクションの陳列棚

建築後はエコロジカルな生活を指して暮らしている。家に日光を採り込み、風通しをよくして電気の使用量を減らし、太陽光を利用してお湯を沸かす。コンポストトイレを使い、雨水もためて利用している。ログハウスで暮らしはじめたことで一応の完成をみたとはいえず、藤井さんのものづくり生活はまだ続いている。いまはロフトに収納扉を作成中で、その合間に5日間かけてログ風犬小屋をつくった。デッキの幅も、テーブルと椅子を置ける幅にするために2m広げた。デッキの独立基礎は、ポイド管を買わずにすますために、作業小屋をつくった際に余ったトタンを筒状に丸めてつくった。そのため波形模様の独立基礎になっている。作業の効果はコストダ



ウンもあるが、作業自体の楽しみも見逃せない。でき上がったものは、買ったものや人に頼んでつくってもらったものにはない、自分だけのこだわりやオリジナリティがある。活用される目を持つ余り材のストックもたっぷりあり、いまも住まいづくりに忙しい日々を送っている。

工事期間中のたくさんの写真と、びっしり書き込まれた作業日誌。かけがえない思い出

家の周りでは花や果樹、無農薬の家庭菜園をつくっている。夏休みに東京から来た孫たちが元気に遊べる庭でもある

